

# 令和5年度事業報告書 (2023. 1. 1～2023. 12. 31)

公益財団法人 美術工芸振興佐藤基金

## I. 事業の概要

当法人の目的である、美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進及び我が国文化の発展のため、下記の事業を行いました。また、決算期の変更より3月決算から12月決算になり、今年度は4月1日から12月31日の9か月間の変則的な事業期間となりました。

石洞美術館では、公益社団法人日本工芸会と共催で、5月には公募展である「第51回伝統工芸日本金工展」を開催致しました。

9月には昨年度に引き続き、中国 明時代末期の代表的な染付陶磁器の展覧会「古染付 Part II」を開催致しました。

助成事業では、6件の応募があり、令和5年2月に選考委員会を実施し、後述の個人2名と1団体の3件に助成をしました。

表彰事業では、若手金属工芸作家を奨励する淡水翁賞を公募し、11件の応募がありました。

## II. 各事業の概要

### 1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

#### (1) 石洞美術館

##### ①展覧会

- ・令和5年5月20日（土）より6月8日（木）まで「第51回伝統工芸日本金工展」を公益社団法人日本工芸会と共催で開催しました。

5月22日（月）には公益社団法人日本工芸会の名誉総裁であられる佳子内親王殿下が来館されました。

また、5月21日（日）と5月28日（日）には金工作家の江田蕙先生や家出隆浩先生による作品説明会を開催しました。

開館日数 18日 来館者数 1,615名 1日平均 89.7名 でした。

- ・令和5年9月1日（金）より11月30日（木）まで「古染付 PartⅡ」を開催し、多種多様な形状な器や、そこに描かれた自由奔放でのびやかに描かれた絵を楽しんで頂きました。

開館日数 79日 来館者数 1,588名 1日平均 20.1名 でした。

## ②地域との連携活動

- ・10月23日（月）公益財団法人足立区生涯学習振興公社と共催し、国際的な演奏家の塚越慎子さんのマリンバ演奏と新倉瞳さんのチェロ演奏による「マリンバとチェロによる音楽の旅」と題して、コンサートインミュージアムを石洞美術館2階ホールで開催致しました。

午前と午後の部があり、合わせて92名の方が鑑賞されました。

## ③広報活動

- ・全館共通入館割引チケット「ぐるっとパス2023」に参加しました。  
ぐるっとパスでの令和5年度の入館者は618人（21.8%）でした。

## ④資料の収集

- ・資料の購入

坂倉正紘作 「刷毛目茶碗白釉流し」1件を購入しました。

## 2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

### (1) 助成事業

- ①板谷寿美『「張成造」銘を持つ作品を中心とした彫漆作品の銘・文様・漆層等の基礎的研究』
- ②竹田多麻子「ウズベキスタン ブハラ・オアシス出土ガラスの調査研究」
- ③中村 裕「北海道陶芸会55周年記念陶・北の時代」

以上総額 2,200,000円

### (2) 表彰事業 淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

今年度で第39回目を迎える淡水翁賞は令和5年9月に募集を開始し11件の応募がありました。令和6年1月に選考委員会を開催し、授賞式は令和6年3月に授賞式を行う予定です。

## 附属明細書について

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

令和6年1月

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金